

東京学芸大学大学史資料室常設展示

Regular
Exhibition
2026
Spring

東京学芸大学のあゆみ



●写真上：「武道場」(1969年)「昭和44年撮影 創立20年誌写真資料」
●写真下：「陸上競技場」(1969年)「昭和44年撮影 創立20年誌写真資料」

東京学芸大学の創設とキャンパスとの移り変わり

【会期】2026年4月10日(金)～6月26日(金)

【時間】[平日] 10:00～16:00

【場所】東京学芸大学附属図書館3階 大学史資料室

【問合せ先】東京学芸大学大学史資料室 [電話] 042-329-7277

[メールアドレス] shiryou@u-gakugei.ac.jp



東京学芸大学
大学史資料室
Office of Tokyo Gakugei Univ. Archives



大学史資料室常設展示によせて

東京学芸大学大学史資料室は、2021年度より附属図書館3階に閲覧・展示スペースを開設して、常設展示を行っています。これは、東京学芸大学大学史資料室が設立から14年目を迎えるにあたり、大学史資料室の機能を一層高めるための取り組みです。

大学史資料室は、本学の運営及び教育研究等に関する重要な資料、また前身校である師範学校時代から現在に至る本学の歴史に関する重要な資料を調査・収集し、その資料の整理、保存及び公開を行うことを任務として出発しました。これは、わが国の教員養成の中核をなしてきた本学の位置を鑑みれば、明治期以来の日本の教員養成の歩んできた歴史の資料を調査・収集し、それを保存・公開していくことと重なります。その意味で、常設展示は、整理・保存してきた資料を継続的かつ安定的に公開する機会であり、その意義は非常に大きいといえます。

常設展示は、年間テーマを設定し、1年間を4～6月、7～9月、10～12月の三期に分けて展示内容を換えて行っています。そしてこれを2年サイクルで回し、1年目のテーマは「師範学校の歴史をふり返る」、2年目は「東京学芸大学のあゆみ」とし、戦前から戦後の本学と教員養成の歴史を辿ります。

2026年度の年間テーマは「東京学芸大学のあゆみ」で、4月10日から展示を開始します。今期のタイトルは「東京学芸大学の創設とキャンパスの移り変わり」です。この展示では、東京学芸大学が新制大学としていかに創設されて、その後に発展し、現在に至るかを、資料や写真から紐解いていきます。大学の設立過程や創成期の大学の様子を実感いただけるように、大学創成期から1960年代あたりまでの小金井キャンパスの変遷について、現在のキャンパスの様子も織り交ぜつつ、諸資料を展示しています。展示資料は、大学設置の過程について描いた資料『東京学芸大学発足の経緯』や木下一雄初代学長の手による入学式の式辞、大学校章入りの皿や職員章、1950～60年代の大学の風景について描かれたイラスト、小金井キャンパスの移り変わりがわかる地図や写真など、多岐に亘ります。

2023年、東京学芸大学は1873年に東京府小学教則講習所として設立されてから「創基150周年」を迎えました。常設展示は、東京学芸大学とその前身校、附属学校園の歴史を振り返るものです。私たちは、過去から未来へと、小さくとも確実な歩みを進めています。ぜひとも、本学学生、卒業生、教職員、そして関係者のみなさんには、常設展示に映し出される東京学芸大学の歴史とそこで学んできた学生の姿に想いをはせていただければと存じます。

2026年4月10日

東京学芸大学大学史資料室長
副学長・附属図書館長

君塚 仁彦

Regular
Exhibition
2026
Spring

東京学芸大学のあゆみ

